

ビワイチ関連事業の現状 と課題等について



1. 経過について(自転車観光関係①)



平成13年 (2001年)	ぐるっと琵琶湖サイクルラインの策定(滋賀県土木交通部) ・サイクリングの初級・中級者が走りやすいびわ湖一周のコース (案内看板や距離標の設置、走行環境の整備など)
平成21年 (2009年)	輪の国びわ湖推進協議会の設立(10月) ・市民団体、NPO、事業者等による民間主導の取組 (びわ湖一周サイクリング認定証の発行、お薦めコースの紹介など)
平成24年 (2012年)	滋賀プラス・サイクル推進協議会の設立(8月) ・官民連携のプラットフォーム (自転車を地域における公共交通体系のひとつとして位置づけていく 「+cycle(プラス・サイクル)」の構想の実現していくことを目的)
平成28年 (2016年)	滋賀県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例の施行(2月) ・自転車損害賠償保険等への加入の義務化 ・自転車の安全で適正な利用の促進 ・自転車を利用した観光の推進など

1. 経過について(自転車観光関係②)



平成29年 (2017年)	滋賀県商工観光労働部観光交流局にビワイチ推進室の設置(4月) 自転車活用推進法の施行(5月) <ul style="list-style-type: none"> ・交通体系における自転車による交通の役割の拡大 ・自転車の活用を総合的・計画的に推進
平成30年 (2018年)	ビワイチ推進総合ビジョンの策定(3月) <ul style="list-style-type: none"> ・サイクルツーリズムの推進 ・安全で快適な自転車による県内周遊を目指す (「ビワイチ」、「ビワイチ・プラス」の推進)
令和元年 (2019年)	ビワイチがナショナルサイクルルートに指定(11月) (つくば霞ヶ浦りんりんロード、しまなみ海道サイクリングロードも同時に指定) 滋賀県自転車活用推進計画の策定(12月) <ul style="list-style-type: none"> ・計画推進期間 令和4年度(2022年度)まで ・幅広い分野にわたる自転車関連施策を一体的に推進

2. 現状について(体験者推計値の推移)



ビワイチ体験者数推計値(人)



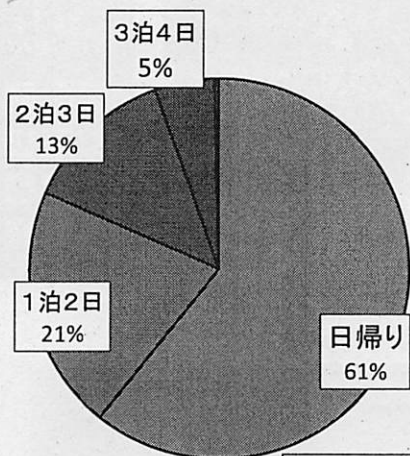
コロナ禍の影響により、延観光入込客数は約3割減であったが、サイクリングは密を避けることのできるため、ビワイチ体験者数は約2割減にとどまったと見込まれる。

2. 現状について(体験者の旅行日程)



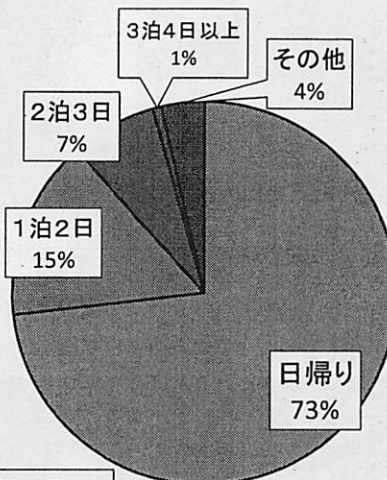
令和元年度

ビワイチ体験者アンケート回答者数 255人
レンタサイクル店、民間メールマガジン利用者を活用した調査



令和2年度

ビワイチ体験者アンケート回答者数 138人
「ビワイチサイクリングナビ」アプリの利用者による調査



日帰り体験が増加(コロナ禍の影響など)
(R1) 61% ⇒ (R2) 73% (12%増)

※いずれも回答者数が少ないため参考値

2. 現状について(ビワイチサイクリングナビ)

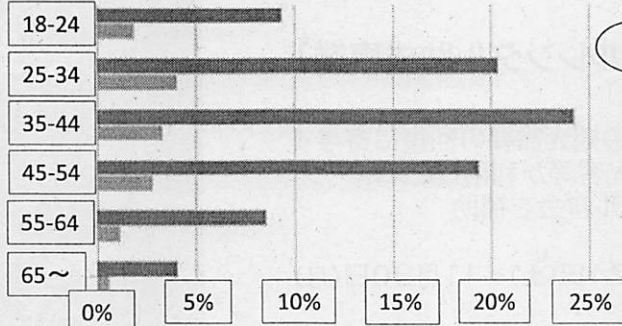


令和3年4月末現在
ダウンロード件数
42,072件

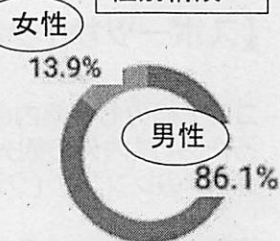
利用年齢層

男性 女性

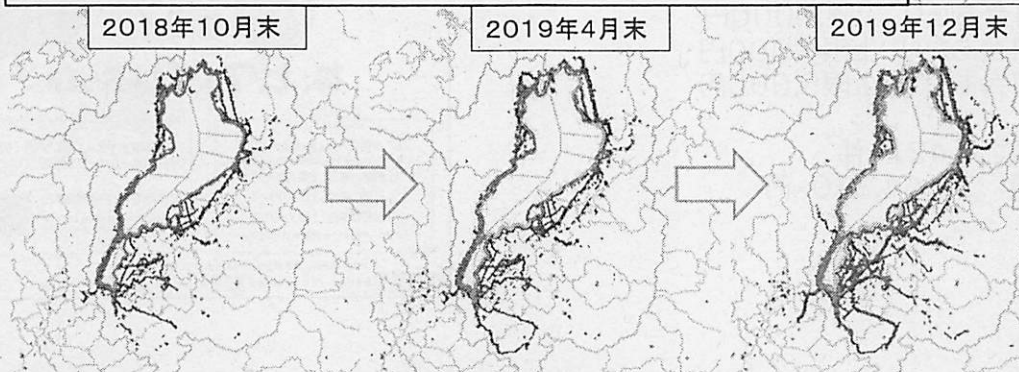
令和2年(2020年)4月～令和3年(2021年)3月



性別構成



『BIWAICHI Cycling NAVI』から取得したGPSデータによる走行軌跡



2. 現状について(企業との連携)



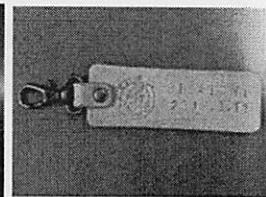
1 サイクルサポートステーションの登録

・トイレや空気ポンプ、自転車用工具の貸出しをはじめとしたサービスの提供など 平成28年から募集開始 (令和3年5月12日現在 322か所)



2 「ビワイチ」ロゴマークの活用

・ロゴマークを定め、事業者等に向けて「ビワイチ」を活かしたグッズ開発・販売等を推進 平成29年から募集開始 (令和3年5月12日現在 76件)



2. 現状について(コロナ禍を踏まえた取組み①)



【スポーツサイクルレンタル助成事業】

コロナ禍のもと県内の観光需要の回復に寄与するため、県内外の観光客等が利用したスポーツタイプのレンタサイクル料金を補助

期間: 令和2年10月24日(土)~11月30日(月)

補助金額(補助率1/2)

1日間 1台あたり 上限2,000円
 2日間 1台あたり 上限4,000円
 3日間 1台あたり 上限5,000円

利用者数: 1,422 件
 補助金額: 3,664,310 円

スポーツサイクルのレンタル料金

最大半額補助

10月24日(土)~11月30日(月)

BIWAICHI ビワイチ

ね、ビワイチしょっか!

助成額

レンタル料金の最大1/2
(スポーツサイクルに限る・利用期間に応じた上限あり)

1日間の場合 上限2,000円
 2日間の場合 上限4,000円
 3日間の場合 上限5,000円

※詳細はレンタサイクルショップにお問い合わせください。

レンタサイクルショップ

本事業に参加しているレンタサイクルショップはホームページに掲載しています。

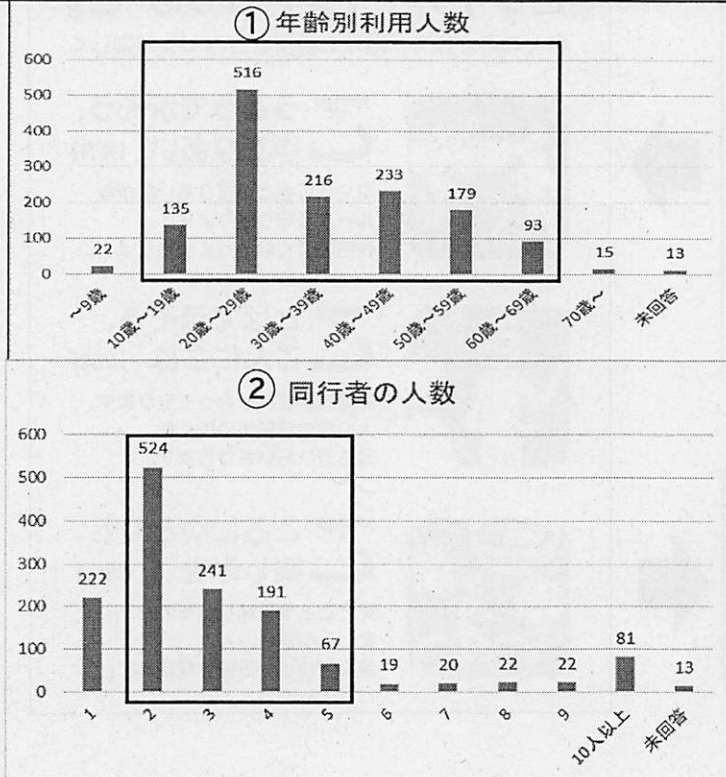
滋賀プラス・サイクル推進協議会
<https://pluscycle.shop.jp/2020/10/24/sports-cycle-support/>

本事業は、滋賀県からの補助を受けて、実施しています。

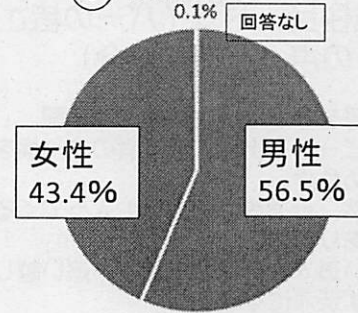
協賛会社 滋賀プラス・サイクル推進協議会 TEL: 071-928-3744 E-mail: biwaichi@plus.jp

2. 現状について(コロナ禍を踏まえた取組み②)

【スポーツサイクルレンタル助成事業の実績内容】



③ 性別構成



- ①利用者は幅広い年齢層。
- ②同伴者やグループによる利用が多い。
- ③女性の利用割合が比較的高い。
○「ビワイチサイクリングナビ」アプリの女性割合[13.9%]と比較して+29.5%高い。

2. 現状について(コロナ禍を踏まえた取組み③)

RITTO CYCLING Stamp Rally

豊かな自然と歴史あふれる「緑と文化のまち栗東」を巡る

滋賀県栗東市

サイクルスタンプラリー

実施期間 2021.2.26(金)～3.31(水)

※江ノ子・タンブラーならスタンプ獲得ポイントに応じて豪華景品が抽選で当たる!

実施期間

令和3年2月26日～3月31日

- ①イベント参加者数 477人
うち、景品応募者数 159人
- ②一緒に参加した人の人数

1人で参加	44.1%
2人	28.6%
3人	8.7%
4人以上	18.6%
2人以上	55.9%
- ③アンケート回答者の年齢層

40歳代	45.3%
50歳代	24.8%
60歳以上	9.9%
30歳代	9.4%
計	70.1%

(主催)
一般社団法人 栗東市観光協会
滋賀プラス・サイクル推進協議会

- ④感想
「とても楽しかった」「楽しかった」
93.2%

2. 現状について(マナー向上の取組み)

地域住民、ドライバーの皆さんからの声 (一部を紹介)

- ・信号を守らないため事故が心配。
- ・スピードを出して歩行者のすぐ横を通るため危険。
- ・突然、歩道等から車道に入ってくることもあり危険。
- ・細い道で長い隊列を組み、追い越しができません渋滞になる。
- ・あいさつをしない。
- ・ゴミを放置する。など

官民連携によりサイクリング利用者のマナー向上のため、3つの心得を作成。(令和3年3月)

今後、関係者と連携し、ステッカーの作成、マスクに同封するなど幅広く展開する。

ビワイチマインド3つの『こ』

各々の心がけて、地域も来訪者もみんなが楽しく



こ どうで示そう、 こ ゆずりあい 【共有】

車や歩行者とゆずりあいながらルールを守り走ります。
住宅の近くはゆっくり走ります。



こ とばで示そう、 こ こんにちは 【交流】

仲間で声を掛け合って走ります。
人や他の自転車の近くを通る時はあいさつします。



こ ろくにゆとりと こ 楽しみを 【発見】

見どころや美味しいものを楽しみながら、
余裕を持った日程で走ります。

3. 主な課題について

(1) 観光振興

- ・家族連れや初心者など誰もが楽しめる自転車観光の推進
- ・琵琶湖岸から内陸部へ(ビワイチ・プラスへの誘客)
- ・観光消費の拡大、交流人口の増大
- ・コロナ禍を踏まえたサイクリング観光の魅力発信
- ・国、市町、他府県、民間等と連携したルート等のPR
- ・サイクリングマップ、ビワイチサイクリングナビの使いやすさアップ など

(2) 都市環境

- ・自転車の利用環境の整備 など

(3) 安全・安心

- ・地元地域や自動車ドライバーの不安・不満の解消
- ・サイクリング利用者の交通ルール順守、マナー向上 など

(4) 健康増進・環境保全

- ・健康、環境など多分野と連携したサイクリングの利活用 など

※大項目は滋賀県自転車活用推進計画の「自転車を巡る現状と課題」より

4. 今後の取組みについて(今年度予算の概要)



「ビワイチ」観光推進事業

～ビワイチ、ビワイチ・プラスのさらなる推進に向けて～

【令和3年度 予算額】 31,108千円
(前年度 26,720千円)

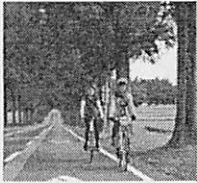
背景(現状分析)

- ・びわ湖沿岸から内陸部へ。
- ・ビワイチ体験者増加数の鈍化。
- ・女性割合、若年割合が低い。
- ・サイクリストの交通マナーに対する多くの苦情

取組みのポイント

- ビワイチ・プラス(内陸部サイクリング)の魅力発信
- 女性や若年層を対象としたイベント等の実施
- サイクリスト向け安全啓発リーフレットの作成
(市町との連携、庁内調整により引き続き取組を進める)

事業概要



1. ビワイチ・プラス(内陸部ルート)の利用促進による新たなサイクリング人口の創出 (10,578千円)

- ・ビワイチ・プラス魅力発信マップ、拠点拡大の促進
- ・イベント開催によるビワイチ・プラスの推進(スタンプラリーなど)
- ・ガイドツアーの技術向上および地域の魅力発信
- ・女性・親子連れへのサイクリングイベント
- ・インバウンド向けの旅行商品造成および魅力発信

2. 安全、安心な受入環境づくり (9,070千円)

- ・サイクリスト向け安全啓発リーフレットの作成
- ・「ビワイチサイクリングナビ」アプリの活用推進
- ・おもてなし力向上研修会(サポートステーション)



3. 民間事業者とのネットワークづくり (6,450千円)

- ・「ビワイチ」で稼ぐ企業参入の促進
- ・アプリログを活用したデータ解析
- ・アドバイザーと連携した推進体制強化

4. 広域連携等を生かしたPR等の取組(3,910千円)

- ・全国イベント等と連携した「ビワイチ」の魅力発信
- ・ビワイチウォーキングの推進

○関係機関等との連絡調整費(1,100千円)

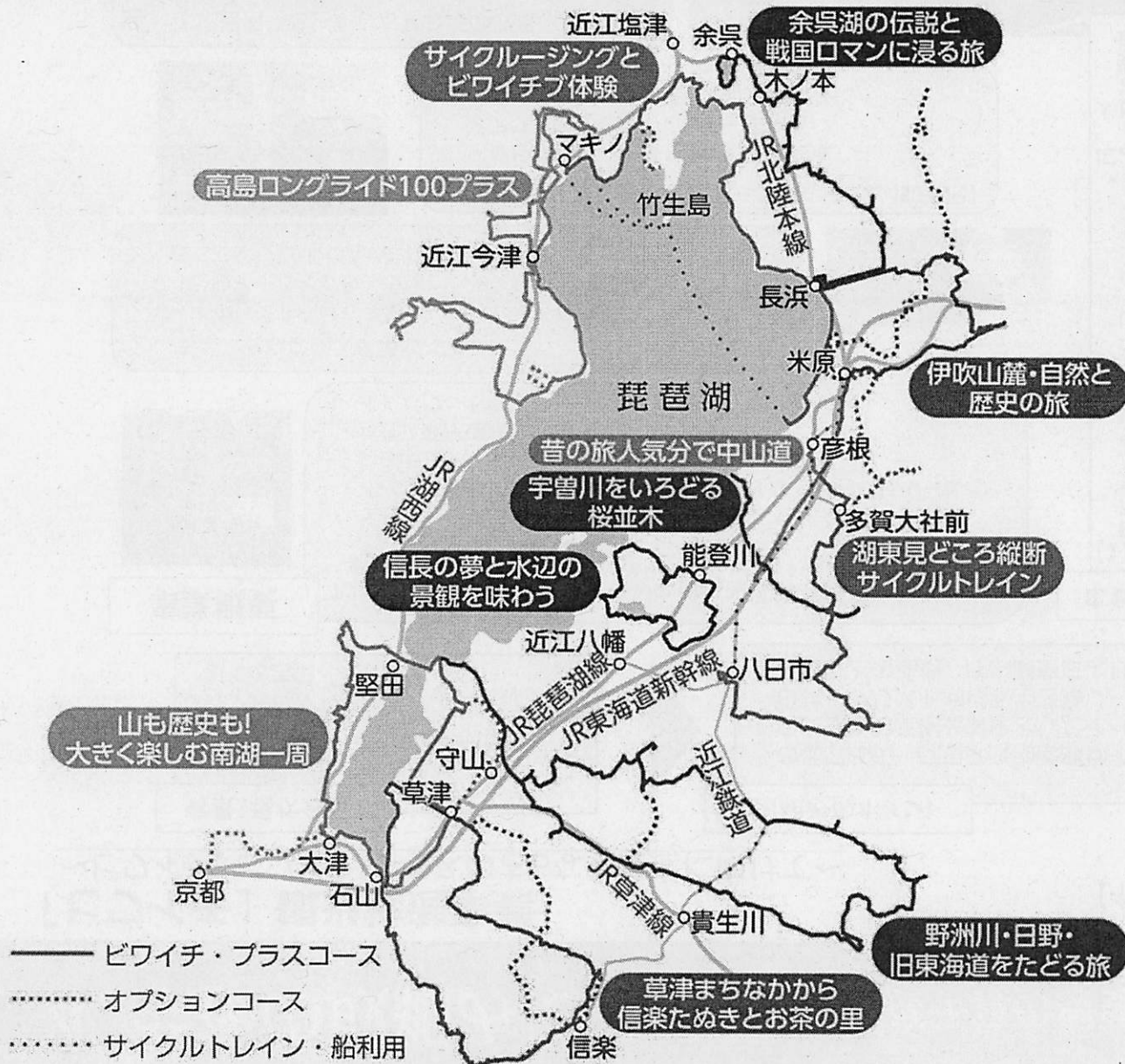
事業のねらい

- (1)琵琶湖岸のみならず、内陸部ルートを活用し、市町と連携しながら、女性や子どもなど様々な年代・多様な層にサイクリング人口を拡大する。
- (2)国スポやその先を見据えつつ、長く滞在・宿泊していただけるよう、
・ビワイチ・プラスを通じて地域の魅力を県内外に発信
・特産品などの消費拡大
・多様な交流人口の増大
・新たな雇用創出
・市町における拠点の充実等により地域経済活性化を図る。

※ビワイチ・プラスのさらなる推進のため、県と市町の担当による連携会議を開催



4. 今後の取組みについて(ビワイチ・プラスへの誘客)



数多くある魅力的なスポットをつなぎ、自然、文化、食、人とのふれあいを通じ、県全体がサイクリング観光により盛り上がることを目指す。

